

会議録
令和7年度 第3回総合教育会議

- 1 日 時 令和8年3月17日（火曜日）
午後3時00分～午後4時45分
- 2 場 所 市立中央図書館2階 視聴覚ホール
- 3 出席者 市長 星野 光弘
教育長 山口 武士
委員 宮 陽一
委員 深井 美千代
委員 深野 はるみ
委員 杜多 堯慶
- 4 署名委員 委員 山口 武士
委員 深野 はるみ
- 5 説明職員 教育部長 下田 恭裕
学校統括監 武田 圭介
鶴瀬公民館長 高見 淳也
南畑公民館長 落合 一志
水谷公民館長 深瀬 尊史
水谷東公民館長 中田 正義
- 6 事務局職員 政策財務部長 磯谷 雅之
政策企画課長 平 輝軌
政策企画課副課長 常盤 欣男
- 7 傍聴者 0人
- 8 議 事 公民館の活用について

【星野市長】

皆さんこんにちは。

今日は教育委員会会議の後ということで、大変お疲れのところを引き続き総合教育会議にご出席を賜りまして、お礼申し上げます。

また日頃より、教育行政、市政全般にわたりご理解とご協力を賜っておりますことを、重ねてお礼申し上げます。

3月の市議会定例会も明日が本会議最終日でございますが、この定例会冒頭におきまし

て、人事案件でございました山口教育長並びに深野委員さんの教育委員、また教育長の再任について、議会にお諮りをさせていただき、全員賛成で可決承認をいただきました。引き続き両先生方には、これからも教育委員、教育長ということでお世話になりますので、よろしくお願い申し上げます。

以上、ご報告を申し上げます。

さて、本日の総合教育会議ですが、公民館についてということで、この議題を取り上げるのは今回が初めてだと思っております。

ご存知の通り地域や時代が変化する状況の中で、公民館がどのようにあるべきかということ、また、今後も更にご活用いただく公民館でありたいと、常にこう思っているところでもございます。

そうしたところから鶴瀬公民館の高見館長を中心に、本日は4公民館の館長に出席をいただいて、報告をいただくわけですが、今年度私からも、4公民館の館長と議論をしたいということで、春先に下田教育部長と4館長の皆さんと私で話し合いをさせていただきました。私が思うところの公民館がこうあってほしいというお願いと、各々がどういった問題や課題を意識されているか、また、どういった取組を今後進めたいというようなところを擦り合わせるような形で意見交換をさせていただきました。

そういう意味では各館長が現在課題として持っているものを共有しながらも、それぞれの地域の特徴に合った運営ないし様々な事業の展開について思いを持っているところもございます。その中で先日4公民館の事業ということで「F u j i m i ×ららコレクション 2026」という公民館事業を、ららぽーと富士見さんの協力、また、ユニクロさんやポーラ化粧品さんのご協力をいただいております。

年配の方からは、ららぽーとができて良くなったね、映画も観られる、美味しいご飯も食べられる、アパレル用品のお店もいっぱい入っている、だけど年配の方からするとちょっと買う服がないんだよね、そういったお話を開店当初から聞いておりました。しかし水谷東公民館の中田館長はそういった話を彼も耳にしていって、ぜひららぽーと富士見を舞台にファッションショーをやりたいと、こういうアイディアでやろうじゃないかということで早速三井不動産商業マネジメントの管理者の方とセッティングをさせていただきまして、色々とアイディアをぶつけ合いながらご協力をいただけるというところまでこぎつけまして、出演される方の募集をかけさせていただいたところ、私を含め17名の皆さんから出てみたいと手が挙がりました。

そしてユニクロさんのご協力をいただきましたので、ユニクロさんの商品でファッションを整えるということで、スタイリストの様にご提案をいただいて、普段とは違ったようなコーディネートをしていただき、ららぽーと富士見の1階の一番奥に赤絨毯をひいてランウェイを作って軽快な音楽に合わせて歩いていただきました。大変賑やかに、かつ出演される方も本当に終始笑顔でおられました。出演にあたり、公民館の職員さんから背中を押してもらったとかですね、いろいろそういったお話も参加者からお聞きいたしました。

一見すると公民館とはそぐわないとも思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、しかし、地域の皆さんが公民館の事業によって笑顔を作り、おしゃれをして普段とは違ったウォーキングする姿を多くの皆さんに見ていただけるというようなことも相まって大変賑やかで、かつ意義のある事業ができたものと私は感じているところでございます。

継続をしてほしいという話もあるようでございますのでこれは検討の課題になるかと思いますが、そうした事業を今回公民館も取り組みました。又はこれに先立って、南畑公民館の「クラフトナイトガーデン2025」や水谷公民館の「コウミンカンビアガーデン」など公民館の取組も変わりつつあります。舞台は公民館で地域の皆さんがお作りをいただくということで実行委員会方式をとったり、ららぽーと富士見さんやユニクロさんまたはクラフトビールというような新たな素材を入れて化学反応を作るような仕掛けによりコミュニケーションやコミュニティを作ったりという取組に繋がったものと思っております。公民館のあり方が、これまでとは違うものへチャレンジをする、そのことによって市民の皆さんに地域の公民館を活用いただく、またそれが外へ広がる、発信していくということに繋がてまいりたいと考えております。

そうした考えを今回、今日のこの会議の中で入れさせていただき、さらには現在の公民館がどのような状況なのかということ踏まえ、教育委員の皆さんにご議論いただきたいということでございます。

公民館についてということで、身近なことでもございますので、ご意見賜りたく、お願い申し上げます。

少し長くなりましたが、本会議が有意義なものになりますことをお願い申し上げまして、冒頭のご挨拶とさせていただきます。それでは高見館長、説明をお願いします。

【鶴瀬公民館 高見館長】
(公民館の活用について説明)

【星野市長】

はい、高見館長ありがとうございました。

まずちょっと私の方から口火を切りたいと思うのですが、4館長から色々と本音も聞いてみたいと思うところがありまして、近年の社会状況の変化と公民館の背景というところで、4館長がいらっしゃいますのでそれぞれ答えていただきたいのですが、鶴瀬、南畑、水谷、水谷東の各公民館について令和元年度からの利用者数のグラフを出していただきました。

やはり令和2年度、3年度がコロナ禍の影響により大きく下がって、それが回復しつつあるという状況を示していただいております。コロナ禍が色々なものを顕在化させたとは感じております。今までなかなか見えなかったものが表に出てきたと思っております。そこに利用者の減少、サークル・団体の構成メンバーの減少とこれまで公民館を積極的に利用してきた方々の数が減ってきている、この辺の解説を個性がそれぞれ公民館にもありますので、4人の館長から感じているところをご案内いただけますでしょうか。

【鶴瀬公民館 高見館長】

鶴瀬公民館につきましては先ほども少しお話ししましたが、やはりサークル団体数やメンバーが減少しているという悩み、そういったものをよく聞いております。

また、サークル・団体の解散もありますが、逆に新しいグループももちろん生まれております。ただそういったグループにつきましては大所帯のグループを作るというよりも、

緩やかな繋がりで集まって気軽に数人、3人、5人程度で集まって、小規模なグループで活動するグループが増えていると感じております。

【南畑公民館 落合館長】

南畑公民館につきましては、元々コロナ禍以前から高齢者のサークルが多く、また、高齢者といいましても若い高齢者の方はまだ農業をやられている現役世代の方が多いので、主に70代以上の方がやっているサークルが多かったです。

これを受けまして、コロナ禍の時に、もうそろそろということで解散をしてしまったり、あと私も色々話を聞いたところ、南畑公民館は広い地域を担当しておりますので、運転免許証の返納が進む中で車を乗り合わせて来ていた方が多く、そのような状況ですと、1人が来られなくなると、3人4人が来られなくなってしまうというような状況ですとか、あとは自転車でもやはりちょっと地域の端の方だと公民館まで来るのは危ないから家族から活動を止められているというケースを聞いたことがございます。

また、現在はアフターコロナとなりましたが、若い方は元々少なかったのもそちらの方はほぼ影響がないと思う一方で、高齢者の今まで長くやっていた団体などについては、残った方々で続けるというよりは、先生になるような、何か教えられるような代表の方、活動を引っ張るリーダーのような方が活動出来なくなってしまうと、どうしても続かなくなってしまうということが現状だと思っております。

【水谷公民館 深瀬館長】

水谷公民館におきましても、鶴瀬公民館、南畑公民館の館長からお話があったようにサークル内の人数が、まず減少をしているというところがあります。

令和元年度と比較いたしますと、1件当たり利用人数が8人ほど減少しておりまして、ある団体ではやはり高齢化ですとか、中心となる人物がご病気ですとか、元々20人ぐらいいたような団体が今は12、3人になってしまっているとか、そういったことがあって活動自体もなかなかできないような団体もございます。

また、公民館で行っていた事業といたしましても、実行委員会形式で行っていたものが、元々コロナ禍前から、担い手不足でいつまで継続できるかが課題になっていたような事業がコロナ禍を契機として完全に中止したことにより、その後なかなか復活できないというような事業もございます。

例えば水谷青空学校という宿泊を伴う小学生とかの体験イベントがあったのですが、担い手の方がなかなかいらっしゃらなくてその後復活できなかったというようなこともございます。そういった事情もあり、なかなかコロナ前まで復活できていないような状況があると考えております。

【水谷東公民館 中田館長】

水谷東公民館においても利用者数はコロナ禍前には回復していない状況がございます。

理由としては何点か考えられますが、やはり60代でもまだ仕事をされている方がいらっしゃるのと、あと元々地域として、新興住宅地というところであったということもあり、人と人との繋がりを求めることも強かったと思いますが、仕事をしている方も結構い

らっしゃるので希薄化ということもあるのかと思います。

あとは地域特性として水谷東地域では約33%が65歳以上の方で高齢化もあるのですが、少子化が進んでおり、水谷東小学校も180人ちょっとだった児童数が、来年度は150人ちょっとに、というような話も聞いており、そういった要因もあると考えております。

サークル団体数も6団体ぐらい減っておりますので、そういった様々な要因があり、回復しきれていない状況と考えております。

【星野市長】

はい4公民館長ありがとうございました。

やはり令和元年度からコロナ禍以降大きく下がってしまいました。ですがおかげさまで徐々に増えつつあるという状況を作っていただいておりますので、ご利用いただく世代や考え方、そういった部分がコロナ禍によって大きく変わったものと思っております。そこへ新たなポイントを移していくことで、利活用を促進していく仕掛けが必要だと思っております。

そこでもう一つだけ聞きます。最後のところでおすすめしたくなる公民館になろうというところで、ちょうどタイムリーに仕掛けていただいた地域自治シンポジウムの報告を載せていただきました。

最近、夕方に私が公民館や交流センターを訪れると小学生、中学生が勉強していたり遊んでいたりします。宿題をしている姿を多く見ます。土日も、例えば針ヶ谷コミュニティセンターはどちらかというと利用率の低い場所ではあるのですが、ロビーなどで子どもたちが勉強したり、集まってゲームをしていたり、そういう姿を多く見るようになりました。このシンポジウムにもありましたが、公民館にこの世代がサードプレイスとしての役割を求めている、私が見た子どもたちも実際にそういう使い方をしていました。これは1人だったり何人かのグループだったり、いわゆるサークルでもないし、何かをやろうとする団体でもないのですが、そういった使い方をここ数年よく見かけ、良いなと思っております。

特にこのときのシンポジウムで出た、相談しやすい保護者・教師以外の頼れる大人がいて、これは館長さんやそこで働いている人たちを指すと思うのですが、“相談できる場所”というような回答・意見が多かったとまとめていただいています。この辺の感覚について、どの館長さんでも結構なので、子どもたちが土曜日、日曜日はそういう使い方をしている、さらに求めるものはそこで相談ができると良いという声が聞けたというところに、今までは高齢者中心の利用状況だったものが、さらに子どもたちが公民館や交流センターを使ってもらえるようになるきっかけが、この“相談ができる場所”なのかと思ったのですが、この分析、感想を教えてください。

【水谷公民館 深瀬館長】

水谷公民館の状況でございますけれども、水谷公民館も放課後になりますと児童室を開放しており、また、図書コーナー、談話コーナーにも席がありそこに小学生が多く集まって一緒にゲームをしたり宿題をしたり、歓談したりしています。

小学生は夕焼け放送までですが、その後中学生が来て一緒に勉強して宿題をするなどで

利用していただいております。相談できる場所、というところではなかなか相談とかに直接乗った記憶はございませんが、利用していく中で少しやんちゃな子もいたりするので、そういった点ではこういったところに気をつけようねとか、注意の声掛けをさせていただくこともございます。

【鶴瀬公民館 高見館長】

鶴瀬公民館でも談話室ですとかいきいき活動室などが空いている場合は、子どもたちの実習とか、そういった部分について開放して多くの方にご利用いただいておりますが、この相談できる場所という部分につきましては、LINEとかSNSで繋がりがあって、そういった意味で見えないところでの繋がりというのはもちろんあるのですが、より本質的なところ、対面でのそういった交流というか、話しができる、そういったものが潜在的に求められているのではと、そんなふうに捉えております。

【南畑公民館 落合館長】

南畑公民館でも大体30人から40人くらいの児童がいて結構大騒ぎなのですが、その中で出張所等もありますのでルールを守らないと、ということで、その中で関わりを持っています。

その中で例えば駐車場の方に行って危ないとか、ホールを開放した際のその中でのルールなど、そういった指導をしながら交流していると、喧嘩とかで泣いている子がいるとうちの職員がどうしたの、ということで相談したりとか、あと低学年などでは「読み聞かせの宿題があるから聞いてくれますか」と来たときなどは少し聞いてあげたりとか、そんな感じで交流を持ちながら、うまく子どもたちと接点があると思っております。

高学年になると南畑公民館の子ども事業企画として怪皆亭(かいかいてい)という、子どもたちで企画して行う事業がございまして、そちらに応募する子がどんどん増えてきております。公民館のことをよく知っているからそこに参加していただけて、現在も50人近くの児童・生徒がこの怪皆亭で登録して遊んでいただいております。

あとは余談ですが、どうして公民館に来るのかなと聞いたことがありまして、そしたらやはり防犯とかの問題があり、学校か、地域のやまがた公園か、公民館ぐらいしか行っただけだよといった親御さんの心配もございます。

以前、コロナ禍では来場者の名前を書いてもらっていたのですが、それを子どもたちには継続してもらっておりまして、親御さんからこちらに来館しているかといった確認の問い合わせ用にもなりますので、この取組は継続しています。

【水谷東公民館 中田館長】

水谷東公民館も20人から30人ぐらいでしょうか、小学生中学生の利用者も多いです。

たまに高校生も来ます。やはり宿題をしたりゲームをしたり、そういう使い方ですが中には、宿題教えてとか、勉強教えてと言ってカウンターに来るお子さんとか、あと、部活でこんなことを顧問の先生に言われたとか、そういった色々な話、相談を受けることもございます。

【星野市長】

はいありがとうございました。

近頃の状況について、改めて再確認ができました。また子どもさんたちに安心安全の場所を提供すること、勉強を教えてとか読み聞かせを聞いてほしい、これは良い状況だと、今思っていて聞いておりました。

さらに言うと、集まる場所から何かするところになって、さらには大人や多世代との交流の場になり、南畑公民館では子ども企画ということで企画者になると、何か作り出そうというチャンスも与えられるということで、将来大学生や大人になり、自分たちも家族を持ったりすると、そういう経験が生きるのかとも思ったりもしました。新しい公民館の姿が見えたというふうに感じたところです。

冒頭に、私の方からご質問させていただいて、現在の状況を聞いていただき、様々なヒントをいただきました。

委員の皆様方からもご意見、ご質問を頂戴したいと思いますがいかがでしょうか。宮先生からまずはお願いしたいと思います。

【宮委員】

私は一番これが公民館のあるべき姿、基本なのだろうなというのが、資料40ページのシンポジウムの中におすすめしたくなる公民館になろうという部分のGグループの“年代に関係なく、楽しく交流できる、自分の居場所になる公民館”これが基本だろうなと思います。

居場所になるということについては先ほど色々な例がありましたが、学校帰りに公民館に寄って勉強したり、ゲームをやったりするという光景は私もよく見ました。10人から20人くらいで公民館の共有部分、入り口のところで楽しそうに遊んでいるところが非常に多かったです。

今学校はノートパソコンなど持ち帰りができるようになっていますが、逆にWi-Fiを使えない家庭もまだまだあると思います。そうすると、公民館のこの共用部分とかはWi-Fiが使えますよね。そういうところでもいろんな復習的な勉強もでき、宿題もできるということを考えれば、そういったものを増やしていくのも一つかと思います。

あと、学校というのは例えば担任がこういうことをやろうと言ったら、子どもたちが自分で考えて行動したり計画したりしてやってくれるわけですが、公民館の事業も色々と若い人たちの意見を聞いて、その子たちがこういう形でやればと考え、仲間も集めてくれる、そういったイベントがあってもいいのかと思います。

それから先ほどの資料8ページの近年の社会状況における公民館の人数ですが、南畑公民館だけあまり減っていない状況が見られます。

コロナ禍を除いて令和元年と令和6年の人数を比べると、減ってはいますが南畑公民館だけそんなに減っていません。私も南畑地区で勤めておりましたが、人と人との繋がりとというのがこの地域はすごく強いです。おばあちゃんおじいちゃんといった世代から子どもたちに対して引き継がれている形もあります。

子どもたちも先ほどありました怪皆亭のような、子どもたちだけで作っていく事業も地域の中でできているので、子どもたちをただ単にお祭りのボランティア、お手伝いという

ような形ではなく、子どもたちが企画してやっていける、そういった事業を逆に大人が手伝うというような形も大切だと思います。

また、それが公民館としての役目の一つだと思います。

もう一つ、私も年齢的には高齢者ですが、先ほどこれは良いと思っていたものが「踏み出す第一歩」です。自分自身もなかなか公民館で活動するサークル等に顔を出せないでいる身ですが、やはりそれはそれで、寂しいというか必要なサークルがなければ高齢者の人たちも本当に家の中に引きこもってしまうようなことになるような気もしました。

感想になりましたが、以上です。

【星野市長】

ありがとうございます。その他の方、いかがでしょうか。

【深井委員】

シンポジウムの中で皆さんが出してくれたAからGのグループの意見、これを使って、富士見市のSNS、YouTubeにポップな感じでそれぞれの公民館の人たちが「公民館に来てね」みたいに出せたらもう少し公民館に行くハードルが低くなるのではと思いました。

私としては、公民館は用事がないと行ってはいけない場所のように思っています。私が小学生のとき、鶴瀬コミュニティセンター、鶴瀬公民館ができた頃、学校行事で遊びに行ったりしましたが、肅々とした雰囲気を感じ、ポップな感じではなかったのも、私の感覚ですが子どもたちが入っていいような場所には見えなかったことを覚えています。

ですが今は子どもたちが遊びに来たり、色々と相談してくれたり、そういった使い方をしてくれているとしたら、もっとたくさんの人に触れてほしいので、こういう人たちがいます、といった感じでやれたら良いと思いましたので、私からの意見です。

【星野市長】

ありがとうございました。館長さんの方から何かご意見はありますか。

【鶴瀬公民館 高見館長】

今、深井委員から子どもたちへの宣伝、PRという部分でご意見、お話いただきましたが、情報発信とコミュニケーションの手法という部分では、公民館だよりを紙ベースで発行したりしているところですが、今は様々な情報の伝え方の手法がある中で、この世代にはこういう伝え方、狙った世代層にあった情報提供、情報の拾い方、そういった部分については知恵を出し合ってアイディアを出していきたいと考えているところです。

【星野市長】

ありがとうございます。それでは深野委員、どうぞ。

【深野委員】

私はいつも公民館を利用させていただいて、すっかり居場所になっております。

週の半分ぐらいはいるのではと思うのですが、高齢者の方は運転免許証を返納するまでは行けるけど、その後は歩いて行くことに不安を感じている方も多いので、そこに少しずつ若い世代が入るといいねという感じですが、どこのサークルもなかなか若い人が入ってきにくいような状況が既存のサークルにはあるという感じがしました。

子どもたちは、どこの館も夕方は本当にたくさん来ていて、居場所になっているということはとてもありがたいと思っています。

私も子育てのとき、何十年前かは子どもを土日に遊ばせる場所がなくて、何か目新しいものはないかなと思いあちこち行き始めていたので、子ども向けイベントとかがあるととても助かっておりました。多分そういったものを探しているお母さんたちもいるんじゃないかと思います。

やはり土日になると市の公式LINEから、どこで何をやっているといった通知がいつもありますので、そういったものがあると参加しやすいというふうに思いました。

駅前のピアザ☆ふじみはいつもいっぱいですね。やはり利便性が高いということは感じました。

また、南畑公民館の怪皆亭のような子どもの企画が他でもできると良いとも思いました。

私はいつもいろいろ出させていただいて、先日の鶴瀬公民館のあったかいイベントでも演奏する機会をいただきましてありがとうございました。

【星野市長】

はい、ありがとうございます。杜多先生お願いします。

【杜多委員】

改めて公民館の活動について皆さん方の努力というのをしっかりと解説していただきありがとうございます。こんな活動をしているのかという部分に、驚きもありました。

先ほど公民館が出張するという取組がございましたが、他の部署が公民館に出張するというのも面白いかなと思っていました。

例えば教育にしても、それから福祉にしても、それから時には税務に関しても、わざわざ市役所に来なければならないのではなく、そこに行って相談ができるという、その相談ということをもう少し拡張していくという考え方もあるのかなと思いました。

それから、もう一つ、確かに人口減とか、若者が減っていくことはもうどうにもならない話だと思いますので、すぐに解決できる話ではありませんので、逆に小さいサークルがいっぱいできて良いのではないのでしょうか。その小さいグループをどういうふうにこの縦の状態ではなくて、横の状態を繋いでいくか、そこら辺に少し工夫が必要になるのかなと。つまり、諸団体の相互協力というか、そういった形で情報も伝わっていくので、裾野を広げていく、裾野に情報を伝えていくためには、やはり口コミというのは、昨今これだけSNSが発達している中でもやはり大切だと感じています。それは話す人の信頼度が裏付けになっているからだと思います。

お互いに宣伝し合うような形の中で、あるいは小さなグループが一緒にやるような形にもなりうるかもしれないと思いました。

あと交通手段がなくて来られない人たちのニーズが何なのかと、改めて何かアンケート

をしてみるとかといった形で掘り下げていくような形もあっていいとも思いました。

そして、やはり地縁の希薄化という課題が先ほどの中で出されましたが、結局この地縁の希薄化が全体としてどういった新たな課題を産んでいくのかなということが気になります。

例えば防災という点に絞ると、やはり希薄化してしまっただけでは困ると思います。いざ何かの災害が起こったときにどう動くかということが具体的にわからないといけない。ボランティアに頼るとしても現実的にはすぐに集まるようなものでもないと思います。

ですから、地縁の希薄化という先にどのような課題があり、どんなところに困るのかというものに繋がるような提案があってもよいのではと思っています。

特に防災の観点からサークルの人たちからどんな協力が得られるのか、これは無理やり協力しろというわけではありませんが、同じような地域の人たちなので、それをうまく活用して、いわゆる防災という部分での発想も大切かと思っています。

そこで得られるのは情報の収集ですが、情報の収集ということは公民館としては最も重要視されるものの一つでもあろうかと思っていますので、やはりそういうことも必要かと思っています。

公民館というのが、お話を聞いていると、生きがいという一つのテーマがあったり、あるいは知識や知恵の伝承という部分があったり、情報交換だったり、そういったことがある中でそれぞれの課題に合わせて、コーディネーターを育てていく必要があると思います。

私の言いたいこととしては、グループが小さくても良いので相互協力ということの一つの課題にできるのではと思いました。

【星野市長】

ありがとうございました。

館長、杜多先生からいただいた言葉の中で、様々なサークルやチームの皆さんが大小色々とあると思うのですが、現在のところは、その横の繋がりを作るために、例えば南畑公民館ふるさと祭りだったり、文化祭だったりで交わるような方策を仕掛けていますが、新しい横の繋がりを作る仕掛けみたいなものについて、何か意見をお持ちですか。

【南畑公民館 落合館長】

南畑公民館では先日の「クラフトナイトガーデン2025」がまさにそうでした、新しい住宅がとても増えている地域、そこに若い方がたくさんいますので、そこでアンテナを張っていたところ、ある地域で小さなコミュニティができておりました。

そのコミュニティをそこだけで終わらせないようにということで、そのコミュニティを引き込んだりして、南畑ふるさとまつりは定番の古いサークルが多く、その立ち位置がもう決まっていたのでなかなか新規参入が難しいところもありました。クラフトナイトガーデンのクラフトは実はクラフトビールのことではなくて「クラフト＝手作りで何かをしよう」というところからスタートしたので、できるだけ今までの既存団体ではなく、新しい若い方がいる団体に声を掛けて、ボランティアの方にも多くご協力いただき、また、子育て世代の方が一番層としても薄いと思っておりましたので、その辺りから火をつけていきました。南畑に来た方は昼間、仕事で都内などに行かれる方も多く、土日はこの地域にい

るという方々が、地元で何ができるかということを知っているというニーズの調査も行いまして、近くに住んでいる方ともなかなか普段は仕事で交流ができないとか、お母さんたちは知っている方も多いけども、お父さんたちがお互いわからないとか、そういうこともあり、クラフトナイトガーデンのようなものを交流の場所として、そこに来ていただければそこから公民館がどういうものかということを知っていただき、サークルを作らなかったとしても、例えば近くの方々が集まって利用規約に反するものでなければ貸し出しもできますので、用が無ければ行かないところではなくて、例えばこんな時に公民館で集まろう、というようなことを、皆様に伝えたいと考え、「クラフトナイトガーデン2025」のイベントを開催したというところになります。

【星野市長】

はい、ありがとうございます。他にありますでしょうか。

【杜多委員】

少しよろしいでしょうか。

【星野市長】

はい。どうぞ、杜多委員。

【杜多委員】

先ほど公民館で防犯の面の話がありましたが、警察の巡回コースの一つにしてもらったりしているのでしょうか。もしあるとすればそれも安心の一つかとも思いました。

【南畑公民館 落合館長】

南畑公民館と水谷公民館は、隣に交番と駐在所があるということもあり、何かあったときの相談先になっています。子どもたちも何かあったときに、公民館に相談に来るか、意外と交番に相談行くというようなことも聞いております。

そういったように、南畑公民館に関しましては、地域の駐在所とうまく連携をとっている状況でございます。

【星野市長】

はいありがとうございます。時間の方もだいぶ経ってまいりましたので山口先生、最後にまとめも含めてご発言いただけますでしょうか。

【山口教育長】

少し堅い話から入りますが、社会教育施設である公民館には教育としての役割があり、私はその目指すところは、最終的には住民自治だと思っております。

まちが元気であったり、先ほど杜多委員からもお話がありましたが、それぞれが助け合う、身近なところで助け合えるまちにしたりするには、協働して活動することが必要、その交流点となるのが公民館の役割として大きいと思っています。

ただ、それを大上段に出すと、やはり堅くなり敷居が高い。自分とは遠いという印象になるので、身近なところでまず公民館を知ってもらい、そこへ行くことで何か新たなことに会う。それがキャッチフレーズとして出してもらった自分発見、そしてそれが自己啓発に繋がって、みんなが繋がり交流が生まれるということです。

その入口として踏み出す一歩、これは敷居を低くしてこれまで公民館に行ったことがない人たちに公民館をまずは知ってもらい、公民館はこんなことができるということをこの1年間、相当今までと比べて4館には新たなことに挑戦してもらい、しかも若い職員もそこにアイデアを出すなど、力を発揮してくれていることを私も実感していますので、このキャッチフレーズを決めたこともそうですが具現化していくことによって地域がさらに元気になっていくような役割を果たしていきたいということが共通した思いです。

シンポジウムで中高生や大学生から意見をもらった中で私として心強かったものは、やはりSNSがこれだけ普及して色々な人と繋がっているはずだろうと思っていましたが、実はリアルに相談できる、面と向かって対面で自分の話を聞いてもらえることを子どもたちが求めている、公民館の役割や本来持っている力を発揮できる要素がここにあると感じました。

昨今では集まらなくても色々なことができるので、こういう施設からは離れてしまうのではと思ってしまうところもあるのですが、そうではなく、実は対面で集まってということを若い人も求めていることが今回よくわかったので、これをヒントにしながら、来年度もその先も、新たな仕掛けに挑戦していこうというふうに思っているところです。

【星野市長】

ありがとうございました。

様々ご意見ご質問やご要望がありました。最後に高見館長に今後の公民館運営または仕掛けについてまとめていただきたいと思います。

【鶴瀬公民館 高見館長】

委員の皆様から貴重なご意見等をいただいたところでございます。

公民館は先ほど教育長がおっしゃる通り、大前提としては、教育施設という位置づけであり、学びから発展していくという部分、そこが大前提にあると思います。

かといってそこをあまりフォーカスしすぎると堅くなってしまうという部分がありますので、今年度は様々な取組にチャレンジしてまいりましたが、そういったところをきっかけといたしまして、先ほどコーディネーターを育てられたらというようなこと、そんなことをご提案いただきました。少し話がずれますが利用者の横の繋がり、利用者同士の繋がりがってところで鶴瀬公民館には利用者連合会というものがあるのですが、高齢化で会の存続自体も厳しくなっており、またそういった横の繋がりとして既存のところに新たに加わるというのなかなか難しいところがありますので、そういった部分で今の時代にあった繋がり方としてコーディネーターということが必要となっていると考えております。

一昨日鶴瀬公民館のあったかいイベントというイベントを行いまして、ステージに8団体ほど参加していただいたのですが、その中の4団体はこれまで公民館とご縁がなかった方にご出演いただきました。そこにはやはり核となる方に色々と声を掛けていただいたり、

呼びかけていただいたりしてそこで広がりも出たというようなところあります。

職員だけではなかなか難しいところもありますので、そういった部分では核となるような方をコーディネーターとしてうまく見つけ出して、そこから広げていく、潜在的なグループの取組などをうまく結びつけていく、そんなところに工夫を凝らしながら新たな公民館作りにこれからもチャレンジしていきたいと思います。

【星野市長】

はい、ありがとうございました。

まさにこの令和7年度はそうしたトライをした1年だったと私も思っています。4館の館長には心から感謝申し上げます。

構造的な課題も色々ありますが、今回ここでヒントや、ご意見をいただきました。新しい核を作るとことや、その戦略も打っておりますので、新しく生まれる新たな核、繋がりを作っていくということが大きなヒントになったと思いますので、よろしくお願いします。

最後にあと一つだけ、私はこの週末にららぽーと富士見の所長に講師をお願いして勉強会をやりました。ららぽーと富士見も約290店舗を抱えており、もちろん売上の目標というものもございますが、売上達成を目指すヒントないし戦略は同じということで、コミュニティを作るということでございました。その核はスポーツだったり、エンタメだったり、そこに人の集まりがあるというふうにおっしゃっていました。

どの世界においても、やはり人が集まるためにはコミュニティや交流が必要だということとをららぽーと富士見さんからも学んだところでございます。

最後に締める前に来年度のことについてですが、来年度令和8年度もまた学期ごと年3回の総合教育会議を開催させていただきます。その中で、これまで継続的なテーマを持って、体力作りや学びの向上でありますとか、また今回の公民館でありますとか、いろいろとテーマを決めてこれまで行ってまいりました。この継続性は今後もシリーズで行ってまいります。2学期とかにできたらノンタイトルでテーマを決めずに、例えば課題や問題を提起していただくという会、私が問題や課題を作ってくるということではなく、皆さんから富士見市の教育について語ってもらう会を1回やってみてはどうかと私は常々思っております。

2学期の回でどうでしょうか、富士見市の教育のためには、こういったことはどうでしょうといったように、おひとり1本ずつ持ち寄っていただくような形で開催ができればと考えております。その場で答えを出そうというわけではなく、まず1度課題として出していただくということで、いかがでしょうか。

【杜多委員】

そういうことであれば、私どもが勉強する機会を作っていただけるとありがたいです。

知っているようでいて、知らない部分もあり、4人で場所場所に行ってみたり話を聞いたりする機会を学校も含めて作っていただけると、より情報が得られて考える土台ができると思いますので、よろしくお願いします。

【星野市長】

今ご指摘いただいたところは検討させていただきますが、令和8年度の2学期の回につきましては、ご意見と課題を持ち寄りフリートークということでやるのは面白いと思ったところでございます。

それでは本日の総合教育会議につきましては、これで閉じさせていただきます。ありがとうございました。